

ミニレター



広島市教育センター

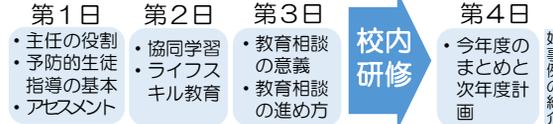
教育相談・支援主任研修

研修紹介 教育相談・支援主任が創る校内研修

白島小学校 城南中学校

【共通研修の日程】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----



校内教育相談体制の充実を図るため、今年度から全校に「教育相談・支援主任」を置くこととしました。これに伴い、「教育相談・支援主任研修」を実施しており、教育相談・支援主任はその研修内容に基づき、校内研修を実施することとしています。本号では、共通研修を生かし、自校の実態に応じた効果的な校内研修を行っている2校の取組を紹介します。

白島小学校は、教職員が共通認識のもと、一貫した指導を行うことで、いじめの未然防止の取組を推進しています。また、城南中学校は、SSWについて理解を深めることで、組織的な教育相談を行っています。

好事例の紹介

白島小学校

城南中学校

ねらい ライフスキル教育の授業を参観して、ライフスキル教育のねらいを再確認するとともに、授業の進め方を研究する。

スクールソーシャルワーカー（SSW）の役割や活動について理解し、今後の活用に役立てる。

年間計画で、授業計画について共通認識を図る。

事前	4～7月	9～12月	1～3月	通年
	コミュニケーションスキル	ソーシャルスキル	アサーションスキル	自己肯定感

教育相談・支援主任がT1として全学級で授業を行う。

SSWについて、理解を図る。

「スクールソーシャルワーカーの活動について」
スクールソーシャルワーカー（生徒指導課職員）

内容

1. 広島市スクールソーシャルワーカーの体制
2. スクールソーシャルワーカーとは
3. 学校や関係機関との協働（事例）

指導の実際について、理解を深める。

第5学年「ムシムシ教室の席替え」
授業者（T1：支援主任、T2：学級担任）

授業のねらい 野外活動で協力するために必要なコミュニケーションスキルを身に付ける。

ポイント

- ・グループでの課題解決
- ・肯定的な言葉がけ（T1、T2）

※参考資料「学校グループワークトレーニング3」図書文化社

事例研修をとおして、理解を深める。

- ジェノグラム（家族図、家族関係図）による把握

※1 性別に関して：□…男性 ○…女性 △…性別不明
※2 本人に関して：◎…中心となる本人は二重四角や二重丸で表現

SSWが介入することで、家族関係や生活環境を詳細に把握することにつながり、今後の支援の方針を考えることができる。

指導上留意することについて、協議する。

実態に応じた工夫

- 他学年や次年度に生かすため、展開等の見直し
- 役割の明確化
- T1は、事前の準備及びファシリテーター
- T2は、個別の支援及び最後の振り返り
- 学んだスキルを使うことができるように

日々の授業等で、全教職員が共通認識のもと、指導を行うことができるように確認

SSW支援による関係機関の変化

〈支援前〉 〈支援後〉

中学校 中学校 ことも家庭相談コーナー
 当該生徒・家族 病院 当該生徒・家族 相談支援事業所
 教育委員会 暮らしサポートセンター

SSWが支援に介入し、様々な関係機関と当該生徒や家族をつなぐことで、状況の改善に向かっている。

今回の研修を通して、先生方からは、「聞くことや伝えることの大切さを感じ、仲間と関わり合いながら楽しく活動することができる授業だった」「思いやりのある言葉がけや聞き方のスキルなど具体的に示すことで、子どもたちは、こんなふうにすればいいということが分かった」等という声が聞かれ、ライフスキル教育の理解を深めることができた。

また、授業後の児童の振り返りでは、「こんなにうれしい日はありません。みんなが、自分の話を聞いてくれてうれしいです。友達と話をしたらこんなに楽しいと知りました」「ぼくが話せばみんなが聞いてくれて、相手が話せばぼくが聞いて、すばらしいチームワークだと思いました」等、コミュニケーションの大切さを実感し、次の活動に生かそうとする記述が見られた。

今回の研修では、SSWの活動について知ることによって、学校だけでは対応できなかった複雑な状況の中に置かれている生徒に対しても、手を差し伸べることができることが理解できた。

研修後は積極的にSSWと連携し、協力をいただくことで、福祉や医療関連の機関ともつながることができた。SSWを含めたケース会議などでは複数の視点から情報交換・見取りができ、子どもへの理解が深まった。

先生方にとっても、自分だけで問題を抱えるのではなく、チームで役割をもって問題解決に向けて取り組むための手立てが増えたことがよかった。

所属長から 校内研修に位置づけて実施したライフスキル教育を通して、子どもたちは楽しく学習するだけでなく、友達と話をすることの喜びを感じたり、対人関係に係るスキルを自然に習得できたりすることを改めて実感しました。今後も計画的にライフスキル教育を進めることで、子どもたちが習得したスキルを学校生活で活用し、学校生活がより楽しく充実したものになることを期待しています。

これまでの、複雑な状況下に置かれている生徒に対して、十分な指導や支援ができないと感じることが多くあり、今年度は教育相談・支援主任を中心に、SSWについての校内研修を実施しました。

今後は、SSWを活用し、なるべく多くの専門機関や関係者につながるによって、課題を持った生徒への支援を充実させていければと考えています。